SONY

2007年度第2四半期 連結業績概要

（2007年9月30日に終了した3ヶ月間)

Sony Corporation Investor Relations

このスライドに記載されている、ソニーの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しです。将来の業績に関する見通しは、将来の営業活動や業績、出来事・状況に関する説明における「確信」、「期待」、「計画」、「戦略」、「見込み」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものには限定されません。口頭または書面による見通し情報は、広く一般に開示される他の媒体にも度々含まれる可能性があります。これらの情報は、現在入手可能な情報から得られたソニーの経営者の判断にもとづいています。実際の業績は、様々なリスクや不確実な要素により、これら業績見通しと大きく異なる結果となりうるため、これら業績見通しのみに全面的に依拠することは控えるようお願いします。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果にかかわらず、常にソニーが将来の見通しを見直すとは限りません。実際の業績に影響を与えうるリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)ソニーの事業領域を取り巻く経済情勢、特に消費動向、(2)為替レート、特にソニーが極めて大きな売上または資産・負債を有する米ドル、ユーロまたはその他の通貨と円との為替レート、(3)継続的な新製品導入と急速な技術革新や、エレクトロニクス、ゲーム、映画分野および音楽ビジネスで顕著な主観的で変わりやすい顧客嗜好などを特徴とする激しい競争の中で、充分なコスト削減を達成しつつ顧客に受け入れられる製品やサービス(ゲーム分野において新たに導入されたプラットフォームを含む)をソニーが設計・開発し続けていく能力、(4)技術開発や生産能力増強のために行う多額の投資を回収できる能力およびその時期、(5)ソニーがエレクトロニクス分野で人員削減やその他のビジネス事業再編を成功させられること、(6)ソニーがエレクトロニクス、ゲーム、映画分野、その他および音楽ビジネスにおいてネットワーク戦略を成功させられること、映画分野および音楽ビジネスでインターネットやその他の技術開発を考慮に入れた販売戦略を立案し遂行できること、(7)ソニーが主にエレクトロニクス分野において研究開発や設備投資に充分な経営資源を適切に集中させられること、(8)主にエレクトロニクス分野およびゲーム分野において、ソニーが製品品質を維持できること(9)ソニーと他社との合弁、協業、提携の成否(10)係争中の法的手続きまたは行政手続きの結果、および(11)生命保険など金融商品における顧客需要の変化、および金融分野における適切なアセット・ライアビリティー・マネージメント遂行の成否などです。ただし、業績に不利な影響を与えうる要素はこれらに限定されるものではありません。

FY07.2Q 連結業績

SONY

（億円）

	FY06.2Q	FY07.2Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	18,542	20,830	+12.3%	+9%
営業利益（損失）	-208**	905***	-	-
税引前利益（損失）	-261	879	-	
持分法による投資利益（純額）	197	211	+7.2%	
当期純利益	17	737	+4,287.8%	
1株当り当期純利益（希薄化後）	1.60 円	70.09 円	+4,280.6%	
構造改革費用****	53	185	+132	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY06.2Q	FY07.2Q
売上高および営業収入:	約 +634 億円	1 ドル	115 円	117 円
営業利益:	約 +303 億円	1 ユーロ	147 円	160 円

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
** ノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる
*** 旧本社跡地の一部の売却益607億円が含まれる
**** 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY07.2Q セグメント情報および関連会社業績

SONY

（億円）

連結セグメント		FY06.2Q	FY07.2Q	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	13,784	16,631	+20.7%	+17%
	営業利益	80	1,069	+1,231.6%	+910%
ゲーム	売上高	1,703	2,434	+42.9%	+38%
	営業利益（損失）	-435	-967	-	-
映画	売上高	1,782	1,896	+6.4%	+5%
	営業利益（損失）	-153	27	-	-
金融	金融ビジネス収入	1,681	1,575	-6.3%	
	営業利益	246	231	-5.8%	
その他	売上高	815	952	+16.8%	
	営業利益	65	108	+65.9%	

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

主要持分法適用会社		7/06 – 9/06	7/07 – 9/07	前年同期比
ソニー・エリクソン（百万ユーロ）	売上高	2,913	3,108	+7%
	税引前利益	433	384	-11%
ソニーBMG（百万ドル）	売上高	948	851	-10%
	税引前利益（損失）	-31	8	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニーBMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です

FY07 連結業績見通し

SONY

（億円）

	FY06	7月時点の見通し	FY07 見通し	7月時点比増減
売上高および営業収入	**82,957**	**87,800**	**89,800**	**+2%**
営業利益*	**718**	**4,400**	**4,500**	**+2%**
うち、構造改革費用	388	350	450	+29%
税引前利益	**1,020**	**4,200**	**5,000**	**+19%**
持分法投による投資利益（純額）	**787**	**800**	**900**	**+13%**
当期純利益	**1,263**	**3,200**	**3,300**	**+3%**
設備投資額	**4,141**	**4,400**	**4,400**	**-**
うち、半導体投資額	1,500	1,300	1,300	-
減価償却費**	**4,000**	**4,300**	**4,300**	**-**
研究開発費	**5,439**	**5,500**	**5,500**	**-**

為替レート	FY06 実績レート	FY07.2Q以降 前提レート	FY07 下半期 前提レート
1ドル	**116 円**	**117 円前後**	**115 円前後**
1ユーロ	**149 円**	**158 円前後**	**160 円前後**

* FY07の営業利益見通しには、旧本社跡地の一部の売却益 607億円が含まれる（FY06には 217億円の売却益を計上）。
また、FY06の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる。
** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む。

FY07 連結業績見通し – 修正の主な要因

SONY

（億円）

	FY06	7月時点の見通し	FY07 見通し	7月時点比増減
売上高および営業収入	**82,957**	**87,800**	**89,800**	**+2%**
営業利益*	**718**	**4,400**	**4,500**	**+2%**
うち、構造改革費用	388	350	450	+29%
税引前利益	**1,020**	**4,200**	**5,000**	**+19%**
持分法投による投資利益（純額）	**787**	**800**	**900**	**+13%**
当期純利益	**1,263**	**3,200**	**3,300**	**+3%**

修正に至った主な要因：

- 第2四半期業績が全体として7月時点の業績見通しを上回ったこと。
- 下半期の売上見通しについて、全体として7月時点の見通しを若干上回る見込みであること。下半期の営業利益見通しについて、ゲーム分野において7月時点の想定を下回る見込みであること。一方、7月時点で想定していなかったいくつかの一時的な利益の計上を見込んでいること。
- 構造改革費用の見通しについて、リアプロジェクションテレビにおける製造設備の減損費用の追加を見込むことなどにより、7月時点の見通しに比べて100億円増額したこと。
- SFHの新規株式公開および東京証券取引所上場にともない、第3四半期に税引前利益約750億円および当期純利益約110億円の計上を見込んでいること。一方、同じくSFHの新規株式公開にともない少数株主利益の増加が見込まれる額につき、当期純利益の減少が見込まれること。
- 持分法による投資利益見通しについて、S－LCDの第8世代の液晶パネルの生産立ち上げが想定以上に順調であることなどにより、100億円増額したこと。

* FY07の営業利益見通しには、旧本社跡地の一部の売却益 607億円が含まれる（FY06には 217億円の売却益を計上）。
また、FY06の営業利益にはノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる。
** 減価償却費は、無形固定資産と繰延保険契約費の償却費を含む。

FY07.2Q 構造改革進捗報告

SONY

	目標数値 (FY07 末まで)	実績 FY05	FY06	FY07.1H	FY05 + FY06 + FY07.1H	
連結営業利益率 *	5%	2.0%	0.9%	4.7%	-	**
		3.9%	1.9%	5.2%	-	***
エレクトロニクス営業利益率 *	4%	-1.1%	2.6%	6.2%	-	**
		1.4%	4.1%	6.9%	-	***
コスト削減(億円)****	2,000	380	1,370	200	1,950	
製造拠点統廃合	65 のうち 11	9	0	0	9	

進捗状況は予定通り

FY06 末までに達成した目標

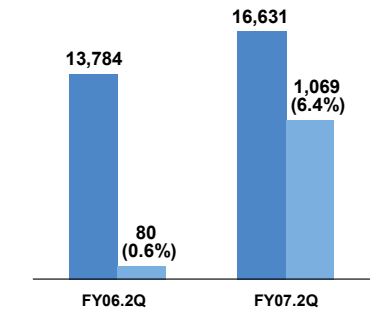
モデル数削減 (FY05 比 -20%)、人員削減 (10,000人)、資産売却 (1,200 億円)

* 営業利益率は代行返上益とノートPC用電池パックの自主回収ならびに自主交換プログラムに関わる費用の引き当てを除く
** 構造改革費用を含む営業利益率
*** 構造改革費用を除く営業利益率
**** 累積コスト削減

FY07.2Q エレクトロニクス

SONY

売上高および営業利益 (億円)



	前年同期比	(LC)
売上高	+20.7%	+17%
営業利益	+1,231.6%	+910%

FY07.2Q 業績

売上高: 20.7%増加 (外部顧客向け売上:11.7%増加)

- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「バイオ」、デジタルカメラ「サイバーショット」
- 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ

営業利益: 1,231.6%増加

- (+)要因: 売上増、販売費・一般管理費の減少、為替
- (−)要因: 原価率の悪化、固定資産の減損・除売却損の増加

製品別:

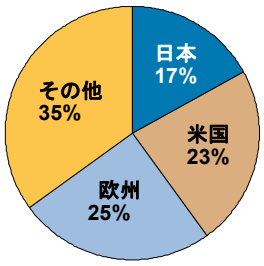
- 増益: システムLSI、PC「バイオ」、デジタルカメラ「サイバーショット」
- 減益: 液晶リアプロジェクションテレビ

構造改革費用: 186億円計上(前年同期 52億円)

セグメント間取引を含む / LC:現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の(%)は営業利益率

FY07.2Q エレクトロニクス地域別売上

SONY



営業収入を除く
外部顧客に対する売上
14,188 億円 +12% (LC +8%)

日本: +1%
- 増収: イメージセンサー
- 減収: 携帯電話端末

米国: +6% (LC +5%)
- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「バイオ」
- 減収: 液晶リアプロジェクションテレビ

欧州: +14% (LC +5%)
- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、PC「バイオ」
- 減収: 携帯電話端末、PCドライブ

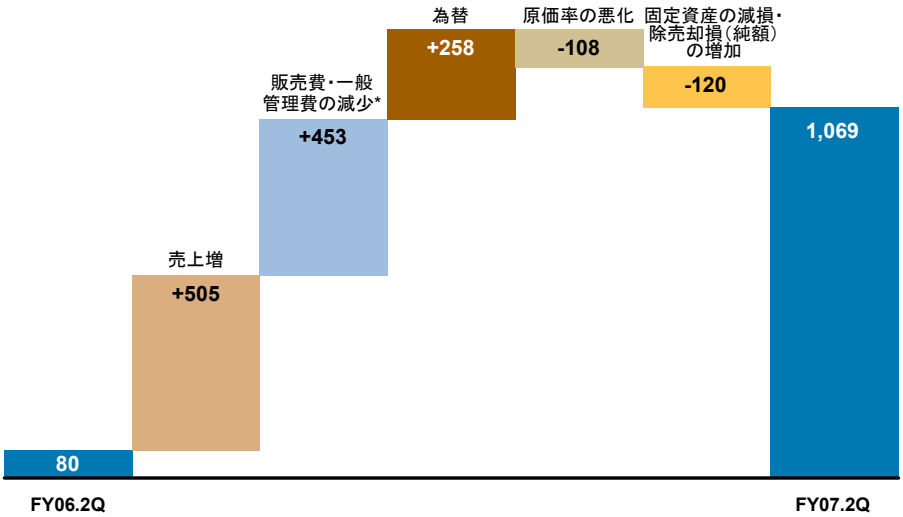
その他: +21% (LC +15%)
- 増収: 液晶テレビ「BRAVIA」、デジタルカメラ「サイバーショット」、PC「バイオ」
- 減収: ブラウン管テレビ

円グラフは地域別売上高構成比（円ベース）/ 営業収入を除く外部顧客に対する売上 / LC：現地通貨試算ベースの伸び率

FY07.2Q エレクトロニクス営業利益増減要因

SONY

（億円）

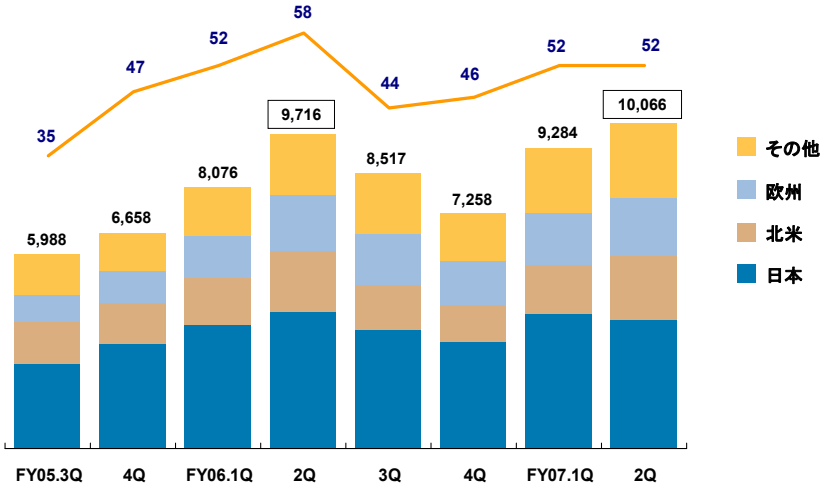


* FY06.2Qの販売費・一般管理費はノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円を引き当てを含む。

FY07.2Q エレクトロニクス連結棚卸資産（地域別）

SONY

（億円、日）



- 1兆66億円（前年同期末比 350億円の増加。2007年3月末比では、2,808億円の増加）

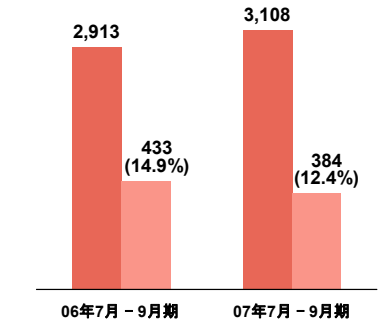
棒グラフ：棚卸資産（億円単位）
折れ線グラフ：棚卸資産回転日数（期首期末平均棚卸資産÷期中平均日次売上）

07年7月–9月期 ソニー・エリクソン・モバイルコミュニケーションズ（持分法適用会社）

SONY

売上高および税引前利益

（百万ユーロ）



	前年同期比
売上高	+7%
税引前利益	-11%

07年7月 – 9月期 業績

販売台数の高成長続く

- 売上高は前年同期比7%増の31億800万ユーロ
- 販売台数は前年同期比31%増加の約2,590万台
- 税引前利益は、前年同期に極めて高い利益額を計上したため、11%減の3億8,400万ユーロ。
- 主に、「ウォークマン®」携帯電話、「サイバーショット」携帯電話が業績に貢献。

ソニーへの影響額：持分法による投資利益は前年同期比7億円減少の211億円

ソニー持分への影響額

	06年7月–9月期	07年7月–9月期	前年同期比
当期純利益（百万ユーロ）	298	267	-10%
ソニー持分への影響額（億円）	218	211	-3%

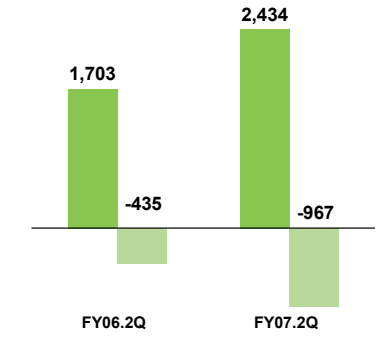
税引前利益下の（%）は税引前利益率

FY07.2Q ゲーム

SONY

売上高および営業利益

（億円）



	前年同期比	(LC)
売上高	+42.9%	+38%
営業利益	-	-

FY07.2Q 業績

売上高:
- 主にPS3の売上寄与により、セグメント全体で増収。
- ハードは増収、ソフトは減収。

営業損益:
- PS3において製造コストを下回る戦略的な価格設定による損失が発生したこと、PS3関連在庫に関する評価減が増加したことなどにより、全体で損失が拡大。

棚卸資産額:
- 2,478億円
- 日米欧でのPS3導入に伴い完成品在庫を計上したことにより、前年同期比で増加。また、年末商戦期に向けて6月末との比較でも増加。

売上台数＊

		FY06.2Q	FY07.2Q	前年同期比
ハード（万台）	PS2	341	328	-4%
	PSP	202	258	+28%
	PS3	-	131	-
ソフト（万本）	PS2	4,720	3,800	-19%
	PSP	1,320	1,260	-5%
	PS3	-	1,030	-

＊ソニーは FY07.1Qより、ハードウェア、ソフトウェア製品の数量について、従来の生産出荷台数・本数から、売上台数・本数に変更しました。

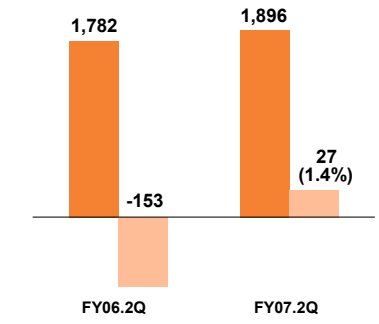
セグメント間取引を含む / LC：現地通貨試算ベースの伸び率 / 営業利益下の（%）は営業利益率

FY07.2Q 映画

SONY

売上高および営業利益

（億円）



	前年同期比	(US$)
売上高	+6.4%	+5%
営業利益	-	-

FY07.2Q 業績

売上高: 6.4%増加、米ドルベースで5%増加
- 主に、劇場公開された映画作品およびテレビ向け映画作品のテレビ局に対する売上が増加したこと、SPE が保有する米国外のいくつかの番組配信事業において広告収入や受信料収入が増加したことによる。
- 当四半期の売上に最も貢献した作品:「Superbad」

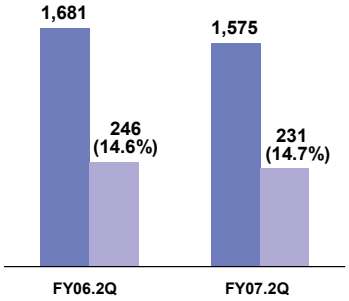
営業損益: 前年同期の153億円の損失に対し、27億円の利益計上
- 劇場公開作品本数の減少にともない、広告宣伝費が減少したことなどが損益改善に貢献。

セグメント間取引を含む / US$：SPEの米ドルベースの伸び率 / 営業利益下の（%）は営業利益率

FY07.2Q 金融

SONY

金融ビジネス収入および営業利益 （億円）



	前年同期比
金融ビジネス収入	-6.3%
営業利益	-5.8%

FY07.2Q 業績

金融ビジネス収入：ソニー生命の減収により、6.3%減少

- ソニー生命の収入：14%減少
  （－）要因：特別勘定における運用損益および一般勘定における転換社債の評価損益の悪化。
  （＋）要因：保険料収入の増加。

営業利益：ソニー生命の減益により、5.8%減少

- ソニー生命の営業利益：31%減少
  （－）要因：一般勘定における転換社債の評価損益が悪化。
  （＋）要因：保険料収入の増加。
- ソニー損保、ソニー銀行のビジネスは順調に推移。

ソニー生命の業績

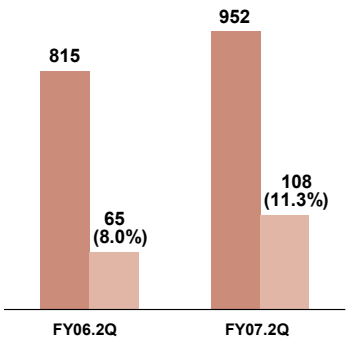
	FY06.2Q	FY07.2Q	前年同期比
収入 （億円）	1,442	1,245	-14%
営業利益 （億円）	256	177	-31%

セグメント間取引を含む / 営業利益下の（%）は営業利益率

FY07.2Q その他

SONY

売上高および営業利益 （億円）



	前年同期比
売上高	+16.8%
営業利益	+65.9%

FY07.2Q 業績

SMEIの音楽出版事業およびSMEJの業績を含む

売上高：前年同期比16.8%の増収

- 主に、SMEJにおいてアルバムの売上が前年同期比で増加したこと、および米国の音楽出版子会社であるSony/ATV Music Publishingが、同業のFamous Musicを買収し、同ビジネスが連結対象となったことによる。
- SMEJ
  - 当四半期の売上貢献アルバム：ORANGE RANGEの「ORANGE」および「RANGE」、YUKIの「five-star」、アンジェラ・アキの「TODAY」など。

営業利益：65.9%増益の108億円

- 主にSMEJの増収、ソニー・エリクソンからの商標権使用料の増加、およびソネットエンタテインメント㈱における新規獲得会員からの課金収入の増加による。

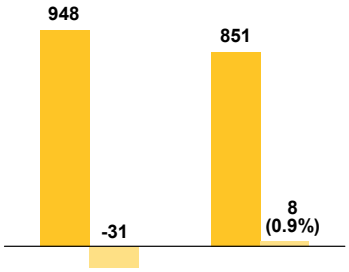
セグメント間取引を含む / 営業利益下の（%）は営業利益率

07年7月–9月期 ソニーBMG・ミュージックエンタテインメント（持分法適用会社）

SONY

売上高および税引前利益

（百万ドル）



	前年同期比
売上高	-10%
税引前利益	-

税引前利益下の（%）は税引前利益率

07年7月 – 9月期 業績

売上高は10%減少となるも、税引前損益は前年同期の3,100万米ドルの損失に対して800万米ドルの利益計上

- 売上高：全世界でパッケージメディア市場が縮小したこと、前年同期に比べて主要アーティストの作品数が少なかったことにより、減収。
- 当四半期の貢献作品：ブルース・スプリングスティーンの「マジック」、Foo Fighters の「Echoes, Silence, Patience & Grace」、Kenny Chesney の「Just Who I Am: Poets & Pirates」など。
- 税引前損益：広告宣伝費、間接費用および構造改革費用が減少したことにより、収益性が改善。
- ドイツの法人税率引き下げに伴う税金資産の取り崩しや法人税の過年度修正等により税金費用が一時的に増加したこともあり、純利益は800万米ドルの損失を計上。
- 欧州委員会は、ソニーBMGの設立に関して再調査をすすめてきたが、2007年10月3日、再調査を完了し、事業の統合によって市場での競争は妨げられないとした2004年の判断を再確認する旨の発表を行った。

ソニーへの影響額：持分法による投資損失は5億円

ソニー持分への影響額

	06年7月–9月期	07年7月–9月期	前年同期比
当期純利益（百万米ドル）	-39	-8	-
ソニー持分への影響額（億円）	-22	-5	-

FY07 エレクトロニクスおよびゲームの売上台数見通し

SONY

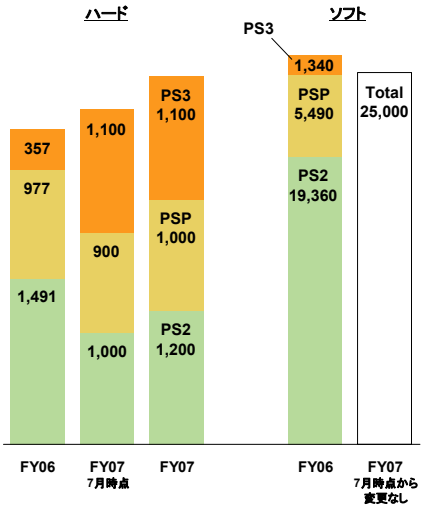
エレクトロニクス

（万台）

	FY06	FY07	
		7月時点	今回
デジタルミュージックプレイヤー「ウォークマン®」	450	500	500
ビデオカメラ「ハンディカム®」	745	750	750
デジタルカメラ「サイバーショット」	1,700	2,000	2,200
DVDビデオプレーヤー	790	700	700
DVDレコーダー	185	170	170
液晶テレビ「BRAVIA」	630	1,000	1,000
液晶リアプロジェクションテレビ	110	70	40
ブラウン管テレビ	470	280	280
PC「VAIO」	400	460	500

ゲーム

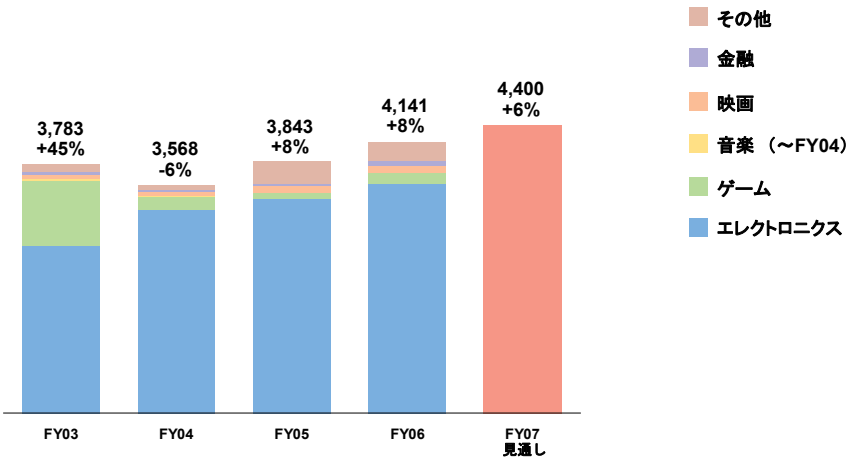
（万台、万本）



FY07 設備投資額見通し

SONY

（億円）



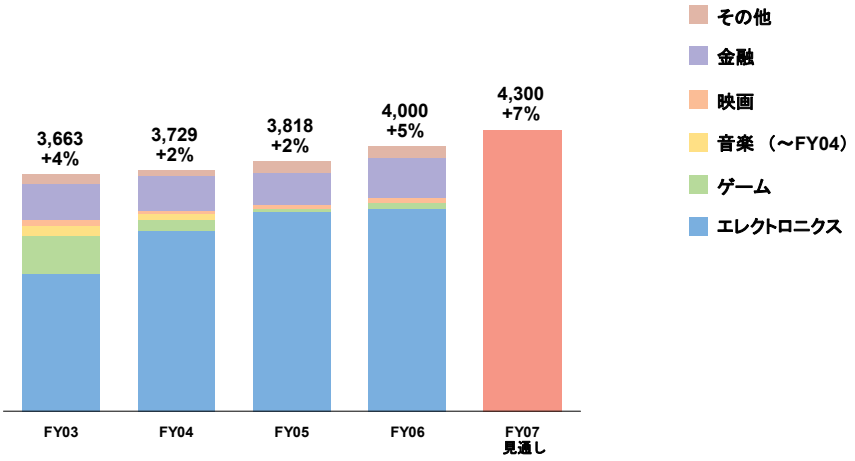
- FY07設備投資額見通しのうち、半導体向けは1,300億円（前年度1,500億円）
- 7月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

FY07 減価償却費および償却費見通し

SONY

（億円）



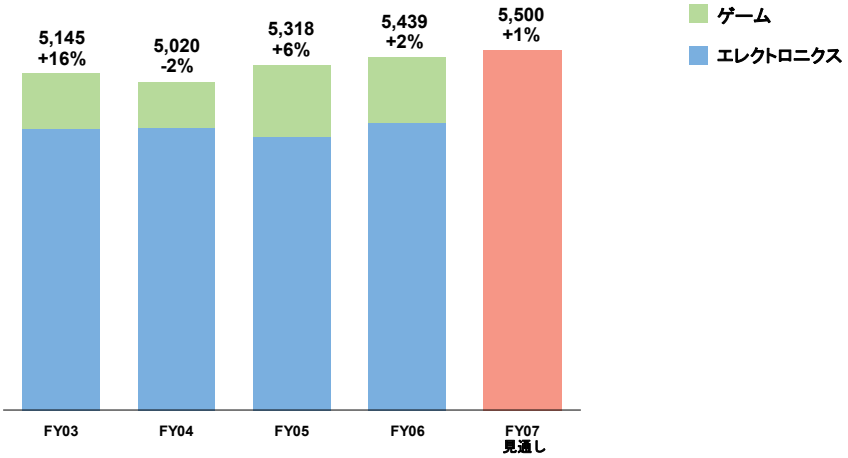
- FY07減価償却費および償却費見通しのうち、有形固定資産分は3,500億円（前年度3,158億円）
- 7月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

FY07 研究開発費見通し

SONY

（億円）



- 7月時点の見通しから変更なし

%は前年度比伸び率

FY07.1H 連結業績

SONY

（億円）

	FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	前年同期比(LC*)
売上高および営業収入	35,984	40,595	+12.8%	+8%
営業利益	62**	1,898***	+2,953.8%	+2,054%
税引前利益	279	1,717	+515.2%	
持分法による投資利益(純額)	233	431	+84.7%	
当期純利益	340	1,402	+312.6%	
1株当り当期純利益(希薄化後)	32.36 円	133.22 円	+311.7%	
構造改革費用****	160	220	+60	

為替変動による業績への影響額		平均レート	FY06.1H	FY07.1H
売上高および営業収入:	約 +1,788 億円	1 ドル	114 円	118 円
営業利益:	約 +560 億円	1 ユーロ	144 円	161 円

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)
** ノートPC用電池パックの自主回収および自主交換プログラムに関わる費用として512億円の引き当てが含まれる
*** 旧本社跡地の一部の売却益607億円が含まれる
**** 構造改革費用は営業費用に含まれる

FY07.1H セグメント情報および関連会社業績

SONY

（億円）

連結セグメント		FY06.1H	FY07.1H	前年同期比	前年同期比(LC*)
エレクトロニクス	売上高	26,593	30,924	+16.3%	+11%
	営業利益	554	1,910	+244.4%	+151%
ゲーム	売上高	2,928	4,400	+50.3%	+42%
	営業利益（損失）	-703	-1,259	-	-
映画	売上高	3,829	4,210	+9.9%	+6%
	営業利益（損失）	-164	59	-	-
金融	金融ビジネス収入	2,922	3,423	+17.2%	
	営業利益	291	569	+95.2%	
その他	売上高	1,696	1,794	+5.7%	
	営業利益	112	185	+65.1%	

* LCベース: 円と現地通貨との間に為替変動がなかったものと仮定した試算ベース(Local Currency Basis)、映画については米ドルベース

主要持分法適用会社		4/06 – 9/06	4/07 – 9/07	前年同期比
ソニー・エリクソン（百万ユーロ）	売上高	5,185	6,220	+20%
	税引前利益	644	711	+10%
ソニーBMG（百万ドル）	売上高	1,820	1,726	-5%
	税引前利益（損失）	-104	39	-

ソニー・エリクソンはエリクソン社、ソニーBMGはベルテルスマン社との間で、ソニーがそれぞれの50%の株式を保有する持分法適用会社です